

質問に対する回答（6月9日受付分）

工事番号	第7-2号
工 事 名	令和7年度 多気地域統合こども園整備事業 統合こども園建築工事
工事場所	多気町 相可・四疋田 地内

質問年月日	令和7年6月9日（月）	回答年月日	令和7年6月13日（金）
質 問 内 容		回 答 内 容	
1	C棟ステージの床高さについて（図面A-C06、A-C09）  ステージの床高さ（段高さ）が矩計図（図面A-C06）ではFL+200（階段100mm×2段）ですが、平面詳細図（図面A-C09）ではFL+300（階段150mm×2段）になっております。矩計図（FL+200、階段100mm×2段）を正と考えて宜しいでしょうか。		宜しいです。
2	C棟ステージ、ステージ幕及びバック幕について（図面A共-06、A-C09、内訳明細書No.101）  ステージの幕が全体図面リスト（図面A共-06、18その他12）では別途工事になっておりますが、平面詳細図（図面A-C09）と内訳明細書（No.101）では本工事の記載があります。ステージ幕、バック幕共に本工事に含むと考えて宜しいでしょうか。		宜しいです。
3	D棟各部屋のセルフレベリング厚みについて（図面A-D04）  仕上表2（内部）の各部屋床において、セルフレベリング下地（躯体高FL-30）とありますが、土間コンクリートを30mm下げて施工し、セルフレベリング30mm（床仕上げ厚含む）を施工すると考えて宜しいでしょうか。		セルフレベリング下地10mm程度とします。
4	各棟WC壁の遮音壁について（図面A共-11）  仕上表（A共-11）の仕上共通事項壁に【男女の便所及びシャワー室が隣接する場合遮音壁（ボード両面2枚貼、内部GW充填を採用する）】とありますが、各棟WC壁記号でA棟はWB-2（1枚貼GW無）WB-6（2枚貼りGW無）B棟はWB-2（1枚貼GW無）C棟はWB-3（1枚貼GW無）D棟はWB-2（1枚貼GW無）E棟はWB-1（2枚貼GW無）WB-3（1枚貼GW無）となっております。また、各棟平面詳細図、矩計図にてWCが114条区画に接する面においてもGWの記載がない為、各棟壁符号を優先し2枚貼+GWは不要と考えて宜しいでしょうか。2枚貼り及びGWが必要な場合は範囲図の御指示願います。		各棟WCの天井裏まで壁にGW t=50 24kg/m <sup>3</sup> 充填とします。（2枚貼りは不要）
5	B棟テラス部の床仕上について（図面AB04、08、09、13、14、15、A-G01）  テラス部床仕上が仕上表、矩計図、平面詳細図ではOF-1（磁器質タイル300角）ですが外構図（図面A-001）ではDコンクリート金鍍押えになっております。また、内訳明細書にタイル工事、積算数量も無いことから外構図を優先してコンクリート金鍍押えと考えて宜しいでしょうか。タイル貼りになる場合は範囲図の御指示願います。		宜しいです。
6	C棟外部犬走コンクリートの仕上について（図面A-C03、06、07、09、A-G01）  外部犬走コンクリート仕上が仕上表、矩計図、平面詳細図ではOF-2（刷毛引き+目地切）ですが、外構図（図面A-001）ではDコンクリート金鍍押えになっております。また、内訳明細書に刷毛引き仕上の項目、積算数量も無いことから外構図を優先してコンクリート金鍍押えと考えて宜しいでしょうか。刷毛引き仕上になる場合は範囲図の御指示願います。		全てコンクリート金鍍とします。
7	外構側溝のグレーチング蓋仕上について（図面A-G01、10、11、20、21、22）  各処外構側溝のグレーチング蓋ですが、詳細図2（図面A-G10）U字側溝は亜鉛メッキ仕上になっていますが、詳細図3（図面A-G11）VS側溝及び公共樹には仕上程度の記載がありません。U字側溝と同様にノンスリップ細目形状亜鉛メッキ仕上と考えて宜しいでしょうか。また、VS側溝、公共樹共に耐荷重T-2とT-25の区分け範囲を御指示願います。		VSはノンスリップノイズレス仕様とします。グレーチングについて全て亜鉛メッキとし、U・D条例に係る動線経路はノンスリップ細目とします。耐荷重について車路、駐車場は（乗入れ口含む）はT-25仕様、その他はT-2とします。

8	外構インターロッキング下部の地盤改良について (図面A-G01、09)	
	インターロッキング下地土間コンクリート下部の地盤改良が外構図(図面A-G01、09)には記載がありませんが、内訳明細書(No.443)ではH=800(C=80kg/m <sup>3</sup> )となっております。外構図を優先して地盤改良は不要と考えて宜しいでしょうか。	表層改良についてはG, H, I舗装下にも地盤改良を要します。
9	A棟案内サインについて(図面A-A23、内訳明細書No.37)	
	⑤案内サインがサインキープラン図(図面A-A23)ではW900×H1,100になっていますが内訳明細書(No.37)ではW700×H600になっています。サインキープラン図(図面A-A23)を正と考えて宜しいでしょうか。	サインキープラン図(図面A-A23)を正とします。
10	各棟外壁塗材仕上について (図面A-A03、A-B04、A-C03、A-D03、A-E03)	
	各棟仕上表にてA・D棟は外壁意匠性吹付塗装(G-1)ですが、B・C・E棟は外壁薄塗材(G-1)となっております。内訳明細書(No.24、57、90、122、162)には外装塗材(ジュラハート)となっている為、全棟共に左官工コテ塗による外装塗材(ジュラハート)と考えて宜しいでしょうか。また、コテ塗パターンの仕上程度を御指示願います。	B・C・E棟は外装塗材コテ塗【NA工法】とします(大壁工法)。A・D棟は外装塗材吹付【TA工法】程度とします。
11	鉄筋圧接部の試験方法について(図面A共-02、S共-01)	
	鉄筋圧接部の試験方法ですが、意匠図特記仕様書(図面A共-02・5鉄筋工事)では超音波探傷試験になっていますが、構造図特記仕様書(S共-01・4鉄筋工事)では抜取検査(3本/ロット)での引張試験となっております。意匠図特記仕様書の超音波探傷試験を正と考えて宜しいでしょうか。	宜しいです。
12	D棟厨房周りの内壁断熱処理について(図面A-D08～13)	
	平面詳細図、矩計図にて厨房周り内壁GW充填は調理室に面する壁のみと考えて宜しいでしょうか。また、調理室114条区画の内壁でGW充填するのは天井高さFL+2,700迄と考えて宜しいでしょうか。	厨房周りの内壁GW充填範囲は調理室に面する壁のみとします(充填高さFL+2,700まで)。
13	地中埋設物について	
	当該敷地内には地中埋設物は存在しないと考えるて宜しいでしょうか。また、地中埋設物が見受けられた場合は、撤去にかかわる施工費及び工期共に別途協議と考えて宜しいでしょうか。	宜しいです。
14	B棟床断熱材について (図面A-B04、08～15、内訳明細書No.42、66)	
	仕上表(図面A-B04)断熱材-1にてフェノールフォーム保温版t=40(1種2号C1)の施工範囲が、矩計図で2重床上げ部の構造用合板部になっています。内訳明細書では土間下断熱材 <sup>※</sup> リスレンフォームt=30の3種(No.42)床下断熱材押出 <sup>※</sup> リスレンフォームt=40の3種(No.66)となっています。施工内容として土間下の断熱材は不要とし、2重床上げ構造用合板の裏面にフェノールフォームt=40を貼付けると考えて宜しいでしょうか。また、施工範囲はテラス部を除く建物内と考えて宜しいでしょうか。	土間下断熱材土間下断熱材 <sup>※</sup> リスレンフォームt=30の3種、床下断熱材押出フェノールフォーム保温版t=40(1種2号C1)とします。
15	E棟土間コンクリート厚について(図面A-E06～8)	
	E棟土間コンクリート厚が矩計図(図面A-E06～8)ではt=200ですが、構造図(図面S-E02、12)ではFS1t=180になっています。構造図t=180を正と考えて宜しいでしょうか。また、地中梁FG1は土間コンクリート下端で水平打継を設けると考えて宜しいでしょうか。	宜しいです。
16	E棟床断熱材について (図面A-E03、06～11、内訳明細書No.148、170)	
	仕上表(図面A-E03)断熱材-1にてフェノールフォーム保温版t=40(1種2号C1)の施工範囲が、矩計図で2重床上げ部の構造用合板部になっています。内訳明細書では土間下断熱材 <sup>※</sup> リスレンフォームt=30の3種(No.148)床下断熱材押出 <sup>※</sup> リスレンフォームt=100の3種(No.170)となっています。施工内容として土間下の断熱材は不要とし、2重床上げ構造用合板の裏面にフェノールフォームt=40を貼付けると考えて宜しいでしょうか。また、施工範囲はテラス部を除く建物内と考えて宜しいでしょうか。	土間下断熱材土間下断熱材 <sup>※</sup> リスレンフォームt=30の3種、床下断熱材押出フェノールフォーム保温版t=40(1種2号C1)とします。

17	屋外渡り廊下3、4の構造について（図面S-F01～06）	
	キャノピー伏図（図面S-F01、02）にて屋外渡り廊下3、4の基礎ベースF3は記載ありますが柱脚記載がありません。同様に鉄骨伏図、軸組図、部材リストがない為、構造図を御指示願います。	別添構造図の資料を追加します。
18	キャノピー及び屋外渡り廊下3、4の構造柱スパンについて（図面A-F02、S-F01）	
	キャノピーの柱スパンが意匠図（図面A-F02）では7,200に対し、構造図（S-F01～05）では柱スパン7,500になっています。同様に屋外渡り廊下3、4の柱スパンが意匠図（図面A-F02）では3,150に対し、構造図（S-F01）では柱スパン3,300になっています。また、キャノピーと屋外渡り廊下3、4の建物間隔において意匠図では1,450に対し構造図では1,150になっています。全て構造図の寸法を正と考えて宜しいでしょうか。	意匠図を正とします。
19	屋内渡り廊下1、2、3と屋外渡り廊下1、2の構造について（図面A-F04～13、S-F07～12）	
	意匠図ではベース、地中梁の記載ありますが、構造図では地中梁の記載がありません。構造図を正と考えて宜しいでしょうか。	宜しいです。
20	屋内渡り廊下3の通芯（壁芯）スパンについて（図面A-F08、S-F09）	
	意匠図では通芯（壁芯）スパンが2,420に対し、構造図では通芯（壁芯）スパンが2,320になっています。構造図を正と考えて宜しいでしょうか。	意匠図を正とします。
21	屋外渡り廊下1の構造スパンについて（図面A-F10、11、S-F10）	
	意匠図（図面A-F10、11）では桁行方向の柱スパンが2,980×2スパンになっています。構造図（図面S-F10）の1階伏図、屋根伏図では柱スパンが2,980×2スパンに対し軸組図では3,105×2スパンになっています。意匠図、構造伏図、構造軸組図の寸法でどの寸法が正か御指示願います。	意匠図を正とします。
22	屋内渡り廊下1、2、3の床下断熱について（図面A-F04～09、内訳明細書No.194）	
	意匠図、内訳明細書共に床下断熱材の記載がありませんが不要と考えて宜しいでしょうか。	A棟と同様の床下断熱材とします。
追記事項1：建具表のガラスについて		
		住宅用サッシについてもガラスはLow-E仕様とします。